

心も復興 応援グッズ

◆被災者を支援できる商品の一例

		
商品名(発売元) イーストLOOP ハートブローチ(福市)	つなげていききたい野崎洋光の二十四節気の食(家の光協会)	ブオナペスカ(石巻工房)
価格 840円	2200円(税別)	大3675円 小2625円
特徴 税金を引いた商品代金の50%が生産者の収入に。岩手県と宮城県の女性が作り手として参加。購入者はフェイスブックで作り手にメッセージを送れる	福島県出身で日本料理店総料理長の野崎さんが、少年時代の思い出とともに、四季折々のふるさとの伝統食を紹介。1冊につき400円を復興支援のために福島県に寄付	「大漁」をイメージしたデザイン帆布トートバッグ。南三陸の漁師の妻が中心になって縫製しており、1個につき500円程度が彼女たちに制作費として支払われている
販売店 高島屋の大阪店と新宿店のほか、ネット(http://www.east-loop.jp/)でも販売	全国の書店にて販売	「ハーマンミラーストア」(東京都千代田区)など都内と仙台市内の計6店で販売

笑顔いっぱいの子どものポーチ・鹿角のピアス

東日本大震災の被災地の復興に向けた歩みは、まだ始まったばかり。まだまだ、支援の手は必要だが、被災者を応援できる様々なグッズがあるのをご存じだろうか。デザインが魅力的だったり、被災者の不屈の魂が感じられたりして、かえって勇気づけられる品も多い。(経済部 竹内和佳子)

※被災地の子どもたち王様やお姫様などのキャラクターがデザインされたポーチを開くと、中には被災地で暮らす大勢の子どもたちの笑顔が……。イーストワール(本社・大阪市)が作った「心をつなぐポーチ」(3150円)だ。

ポーチの刺しゅうは、宮城県石巻市などの仮設住宅に住む被災者の女性が施している。1個につき500円が彼女たちに支払われる。

中の子どもの写真は、アートディレクター水谷孝次さんが、震災後、福島県いわき市などを何度も訪ねて撮りためた。「子どもの笑顔こそが未来への希望。絶望の中で希望を見いだした人の笑顔を持つ、力強さと美しさを伝えたい」(水谷さん)という思いの通り、ポーチを開くたびに子どもたちの笑顔に励まされる。

被災地ならではの素材や技術を生かしたグッズもある。一般社団法人「つむぎや」(東京都墨田区)が発売元の「OCICA(オシカ)」ブランドのネックレス(2800円)とピアス(5800円)もそのひとつだ。津波で大きな被害を受けた石巻市の漁村に暮らす女性たちが、牡鹿半島にすむ鹿の角を磨き上げ、漁の網を補修するカラフルな糸を巻き付けて作っている。

ネイティブ・アメリカンのお守りをモチーフにしたスタイリッシュなデザインは、カジュアルな装いにもよく合う。鹿角は生命再生の象徴とされ、漁網の補修糸には傷をいやす意味合いがあるといい、復興への願いが込められている。商品代金のうち、ネックレスは1000円、ピアスは2200円が作り手に支払われている。



「心をつなぐポーチ」に使われている水谷さんの写真 © MERRY PROJECT

シンガポール出身の写真家レスリー・キーさんは、ファッションブランド「アンテプリマ」の支援を受けて、浜崎あゆみさんら著名な歌手やモデルを撮った写真集「カラズ オブ ホープ」(5250円)を出版した。代金の約半額がNGO「ジョイセフ」(東

著名人モデルの写真集も

京都新宿区)を通じて、大震災の被災地に寄付される。

写真は基本的に白黒だが、被写体が持つ「アンテプリマ」のバッグだけが鮮やかな色を帯び、目に飛び込んでくる。「日本に早く希望の色が戻りますように」との思いが込められているという。

被災者からは「孫にジュースを買ってあげられて、うれしかった」(70歳代女性)、「作業に集中することで、つらいことを考えずに済む」などの声が上がっている。

※生命再生の象徴 NPO(非営利組織)法人「テラ・ルネッサンス」(京都市)が手がけるのが、東北地方に伝わる「刺し子」という刺しゅうを施した商品の販売だ。その伝統を生かして、岩手県大槌町などで被災した女性たちが、同町の町の鳥のカモメなどをモチーフに商品を作っている。コースター(商品代金700円)なら300円、ふきん(1200円)なら500円が作り手に支払われている。